

《出島の医学の誕生》



大学院 医歯薬学総合研究科
相川 忠臣 教授
Aikawa Tadaomi

日本最初の南蛮外科医
ルイス・デ・アルメイダ
長崎開港の扉を開く

来る2007年はポンペ・ファン・メルデルフオールトが近代西洋医学教育を創始し、長崎大学が発祥して150年の記念すべき年である。さらにルイス・デ・アルメイダがホスピタルを建て南蛮医学を伝えてから440年の節目に初めて福音を伝道してから440年の節目の年でもある。医学部新入生最初の講義では、素晴らしい国際医療人であったポンペやアルメイダのように学生が育ってくれる事を願って、彼らの生涯について語っている。

イエズス会の聖フランシスコ・ザビエルは1549年にコスメ・デ・トーレス神父らと共に来日し、初めてキリストの福音を伝道した。ザビエルの志を継ぎ日本に残ったトーレス神父の代理人として日本各地

内に設立された日本初のホスピタルで、外科の卓越した技量と良薬で病を治し、修道士として魂を癒した。その後、日本各地に宣教の旅に出る。平戸でのポルトガル人殺害の事件後、彼は大村純忠と交渉し、平戸に代わる港として横瀬浦(佐世保湾口)を選び、教会を建てトーレス神父を迎えた。神父は純忠に授洗、初のキリシタン大名が誕生した。反対勢力により横瀬浦が焼き討ちにあった後、会の本部は転々と変わる。アルメイダは1567年長崎に初めてキリストの福音を伝道して教会を開いた。この時、彼は長崎開港の扉をも開いたのである。1571年、長崎の町が建設され、ポルトガル船が入港した。長崎はイエズス会領となり、キリスト教布教と南蛮貿易の中心地として発展した。アルメイダは島原、天草で布教し、多くの信者を得た。司祭に昇格したのは亡くなる4年前であった。1583年に天草河内浦において慕う信徒に惜しまれながら58歳で逝去した②。

キリシタンによる神社仏閣の破却に怒った豊臣秀吉は、1587年布教を禁止、徳川家康、秀忠、家光と時代が進むにつれ、禁教は厳しくなった。1638年アルメイダの信徒の子孫は天草・島原の乱で原城に立てこもり、全滅した。1639年出島に隔離されていたポルトガル人は追放され、1641年オランダ商館が平戸から出島に移された。この後南蛮医学に代わり紅毛医学が出島から導入されるようになる(ポルトガル人を南蛮人、オランダ人を紅毛人という)。



▲[②]天草本渡のルイス・デ・アルメイダ記念碑

に伝道した宣教師アルメイダは日本最初の南蛮外科医である①。ポルトガルのリスボンで医師となつたアルメイダはインドに渡り、貿易で財を成した。日本とマカオの交易に関わる高名な商人であったが、全ての富をイエズス会に寄進して修道士となつた。彼は、1557年に大分府



▲[①]春徳寺付近(長崎市)のルイス・デ・アルメイダ記念碑

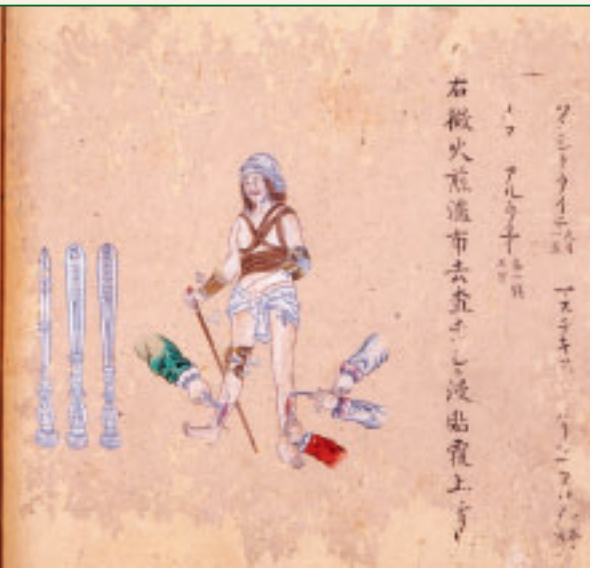
「ルイス・デ・アルメイダ 医師にして宣教師、長崎を訪れた最初のポルトガル人、1567年」とある。1569年唐渡(トード)山の麓、現在の春徳寺付近にトードス・オス・サントス教会堂が建設された。ピレラ神父の命名であるが、アルメイダがリスボンで医療に従事したTODOS OS SANTOS病院にちなんで神父に提案したのではなかろうか。(結城了悟氏の御教示)



▲[③]ケンベルが將軍綱吉に拝謁し、歌を披露した図(日本誌 所収 ケンベル著、長崎大学附属図書館医学分館蔵)



▲[④-c]スケルテラスの外科的武器庫(長崎大学附属図書館医学分館蔵)



▶【⑤】吉雄耕牛肖像(長崎大学附属図書館医学分館蔵)
絵は牛島若融、由良篤の吉雄耕牛肖像引並賛。



▲【④-a】紅夷外科宗伝
3つの肩関節脱臼整復図と
全身骨格図はパレの外科書にみられる。



▲【④-b】パレの外科書
(長崎大学附属図書館医学分館蔵)

出島の医学の誕生と オランダ通詞

1649年に、出島の商館医となったカスパル・シヤンベルゲルは、江戸で幕府の重臣たちを治療して名声を得た。軟膏、膏薬を用いる彼の治療法はカスバル流外科として流布した。代々の出島の外科医から医学知識を得、蘭書を訳出するオランダ通詞達の努力により、紅毛外科は定着した。本木、榎林両家の初代通詞は出島の医学の誕生に多大の貢献をした。

本木良意(1628~1697)は平戸から長崎に移住してきたオランダ通詞である。良意は江戸番通詞として9度も江戸へ参府した。將軍綱吉にオランダ人が拝謁した折、歌を所望され、とまどうオランダ人に代わってオランダ舞や歌を披露して、將軍より破魔矢を賜った。その後、ケンペルも江戸に参府した折、綱吉の前で歌を披露している【③】。優れた語学力で解剖図『小宇宙鑑』(J・レメリン著)を1680年代に翻訳した。1774年に杉田玄白らが解体新書を出版する90年も前に長崎蘭学は成立していたのである。盲目腸、十二指腸の腸、直なる腸のような訳語を使用している、後世の盲腸、十二指腸、直腸という解剖用語の元であったことをうかがわせる。

榎林鎮山(1648~1711)は榎林流紅毛外科の開祖である。その著『紅夷外科宗伝』(1706)【④a】は

長崎大学附属図書館医学分館に所蔵されている。カラーの外科手技や外科器具の図が見事である。その原典はアンブローズ・パレの外科書【④b】とジョアネス・スクルテタスの『外科の武器庫』【④c】である。出島の外科医の伝習した内容を鎮山がまとめたのではないとも言われている。

吉雄、耕牛(1724~1800)【⑤】は吉雄流紅毛外科を広め、出島の医学を開花させた。出島の外科医パウエルやツユンベリーに学んだ。ツユンベリーは梅毒の水銀剤による治療を教えた。水銀による治療は卓効があり、長崎の梅毒患者の多くが耕牛の元に殺到した。耕牛は尿の診断法を日本に初めて導入した。蘭書に広く目を通して医学に通暁していたので多くの門弟が集まった。江戸番通詞を11度も勤め、江戸の蘭学者と交流を深めた。前野良沢は耕牛に学んだ。良沢や杉田玄白による解体新書に耕牛は序文を寄せている。吉雄流外科に吉原元棟の整骨法を取り入れている。門人の二宮彦可は吉原氏に学び整骨術を唱導した【⑥】。顕微鏡など西洋の品々であふれる吉雄邸は長崎を訪れる人々の名所であった。



▶【④-a】紅夷外科宗伝
(長崎大学附属図書館医学分館蔵)

右の身体各部処置図はスクルテタスの外科の武器庫にみられるが、左の下腿切断図は原典不明。

◀【⑥】正骨原
(長崎大学附属図書館医学分館蔵)

正骨原の著者二宮彦可の養嗣子二宮督が正骨原に収載される整骨手技のうち16図を右香齋に描かせたもの。徒手整復術の基本型が示されている。

